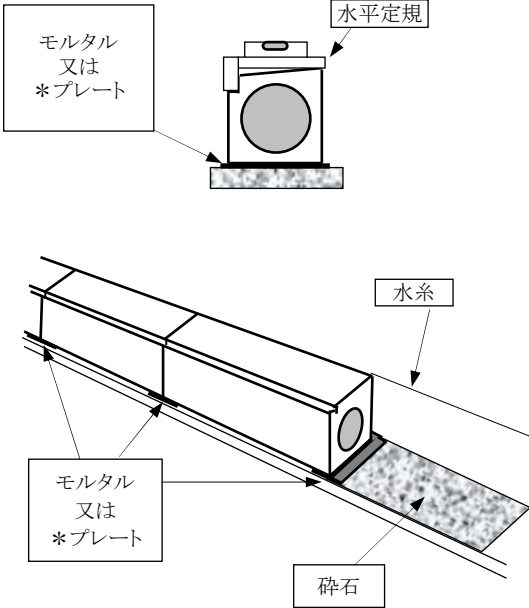


アーボ箱形パイプの施工要領書

番号	項目	要領																													
1	吊り方	<p>*用意して頂くもの 外れ止めフック付きワイヤー 4本 (10mm以上×2.5m程度)</p> <p>① 四点吊りをお願いします。</p> <p>② 使用吊具 ・アイボルト(16mm) 4ヶ 〔下記の場合、長シャックル付アイボルトを用意致します〕</p> <p>③ アイボルトの取付け高さは、製造機種の違いから、下記のようにイ、ロの二通りがあります。それぞれの吊り方を参考にして下さい。</p> <p>・イの場合・・・歩道側のアイボルトにのみ長いシャックルを付け車道側はアイボルトに直接フックを掛けて吊る。</p> <p>・ロの場合・・・歩道側、車道側とも、アイボルトに直接フックを掛けて吊る。</p> <p>④ 箱形底部の泥をほうき等で、払い落とす。</p> <p>⑤ 布設後、吊インサート穴は、錆び防止のため、ビニールキャップでふたをして下さい。</p>																													
		<p>*止水材の名称 オブシーラー [合成ゴム発泡体シール材]</p> <p>① ウェス等でオブシーラーを貼付けるソケット面のホコリを落として下さい。</p> <p>② オブシーラーのはく離紙を剥がし、右の写真のように繋ぎ目が上になる様に貼付けて下さい。</p>																													
		<p>使用本数</p> <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>1ヶ所当たりの必要本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>φ 150</td><td>0.5</td></tr> <tr><td>φ 200</td><td>1</td></tr> <tr><td>φ 250</td><td>1</td></tr> <tr><td>φ 300</td><td>1</td></tr> <tr><td>φ 400</td><td>1.5</td></tr> <tr><td>φ 450</td><td>1.5</td></tr> <tr><td>φ 500</td><td>2</td></tr> <tr><td>φ 600</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	呼び径	1ヶ所当たりの必要本数	φ 150	0.5	φ 200	1	φ 250	1	φ 300	1	φ 400	1.5	φ 450	1.5	φ 500	2	φ 600	2	<p>使用サイズ表</p> <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>オブシーラー サイズ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>t 10×15×1000</td> <td>・直線部 標準セット品</td> </tr> <tr> <td>t 15×20×1000</td> <td>・直線、曲線部 標準セット品 ・エスフリー 樹標準セット品</td> </tr> <tr> <td>t 25×15×1000</td> <td>・曲線部で目地が大きい場合</td> </tr> <tr> <td>t 40×15×1000</td> <td>・半管を18Rで使用する場合</td> </tr> </tbody> </table>	オブシーラー サイズ	備考	t 10×15×1000	・直線部 標準セット品	t 15×20×1000	・直線、曲線部 標準セット品 ・エスフリー 樹標準セット品	t 25×15×1000	・曲線部で目地が大きい場合	t 40×15×1000	・半管を18Rで使用する場合
		呼び径	1ヶ所当たりの必要本数																												
		φ 150	0.5																												
φ 200	1																														
φ 250	1																														
φ 300	1																														
φ 400	1.5																														
φ 450	1.5																														
φ 500	2																														
φ 600	2																														
オブシーラー サイズ	備考																														
t 10×15×1000	・直線部 標準セット品																														
t 15×20×1000	・直線、曲線部 標準セット品 ・エスフリー 樹標準セット品																														
t 25×15×1000	・曲線部で目地が大きい場合																														
t 40×15×1000	・半管を18Rで使用する場合																														
3-1	布設 (コンクリート基礎)	<p>① 丁張りは、車道側の天端に合わせてかけて下さい。又、ヌキ板等で作った水平定規を使用すると便利です。</p> <p>② 基礎コンクリートの上に敷きモルタルを敷き、箱形を布設します。</p> <p>③ 接合時に、敷きモルタルがかまないようにご注意下さい。</p> <p>④ 高さの微調整をキャンバー等で行った後、箱形底部にすき間ができないようモルタルをつめ込んで下さい。</p> <p>⑤ 目地の開きは通常1～2mm程度で、カーブ部等で目地が大きく開く場合にはモルタル目地を施して下さい。</p> <p>⑥ 箱形は、右車線用・左車線用の区別がありませんので、反対車線ではオス・メスが逆になります。上流側・下流側どちらからでも施工できます。</p>																													

3-2	<p style="text-align: center;">布設 (碎石基礎)</p>	<p>① 丁張りは、車道側の天端に合わせてかけて下さい。又、ヌキ板等で作った水平定規を使用すると便利です。</p> <p>② 碎石基礎の場合は転圧後、モルタルで高さの微調整を行って下さい。</p> <p style="text-align: center;">*別売のプレート、接合部に使用しますと、施工がスムーズに行えます。</p> <p>③ 目地の開きは通常1~2mm程度で、カーブ部等で目地が大きく開く場合にはモルタル目地を施して下さい。</p> <p>④ 箱形は、右車線用・左車線用の区別がありませんので、反対車線ではオス・メスが逆になります。上流側・下流側どちらからでも施工できます。</p>	 <p style="text-align: center;">*プレートは別売となります</p>
4	<p style="text-align: center;">埋め戻し</p>	<p>① 埋戻しは、沈下防止のためよく締め固めて下さい。</p> <p>② 表層の舗装時には、ローラーが箱形の縁辺に乗らないように少し高めに施して下さい。</p>	